

平成 18 年度油ヶ淵生物モニタリング調査概要 底生生物調査

- ・ 調査時期：平成 18 年 5 月，8 月，10 月、平成 19 年 1 月（計 4 回）
- ・ 調査地点：湖内 4 地点（B1，B2，B4，B5 図 1 参照）
- ・ 結果

底生生物の調査では、イトミミズ類、ゴカイ類、ユスリカ類が多く採集された。これらの生物は、泥の比率が高く、比較的汚濁の進行した底質に多く出現する。また、塩分に対する耐性が比較的強いとされるイトミミズ類のユリミミズ属やユスリカ類のカユスリカ属、海の内湾や干潟の砂泥域に出現するゴカイ類のノトマストゥス属が採集されており、湖内の底生生物は海水の影響を受けていると考えられる。

平成 17 年度～18 年度に湖内で確認された底生生物の種類数、個体数は、図 2 に示すように、季節ごと、調査地点ごとに変動しているが、種類数については、湖心部の B1、B4 では夏季に多く、一方、湖岸側の B2、B5 では秋季に多くなる傾向がみられる。また、個体数については、水深の深い湖心部の B1、B4 は、湖岸側の B2、B5 に比べて個体数が少ない傾向がみられる。

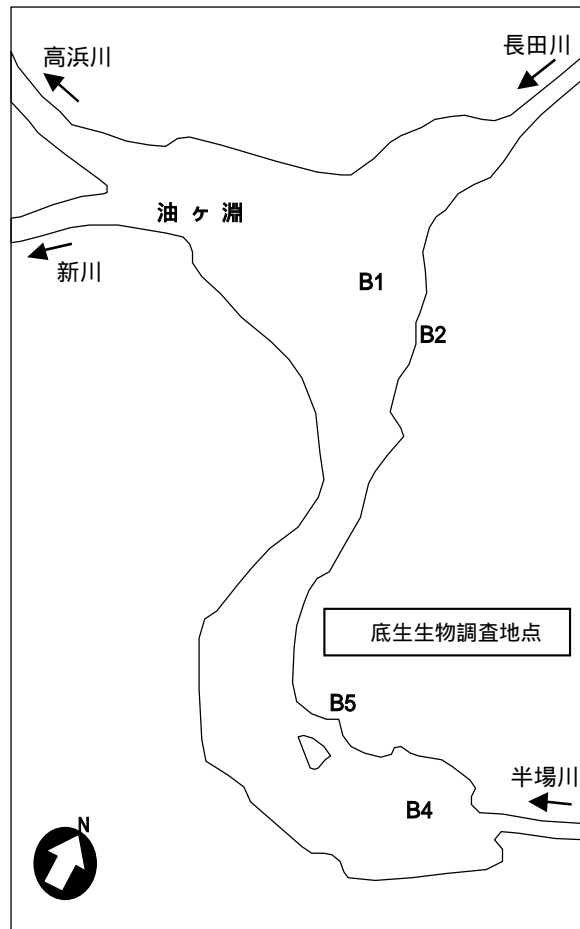


図 1 底生生物調査地点位置

底生生物の生息にとって重要な要因である底層の溶存酸素量（D0）をみると、B1、B2 及び B5 では D0 がおおむね 3mg/L 以上で推移しており、一方、他の地点に比べて水深の深い B4 では 3mg/L を下回ることが多かった（図 3 参照）。B4 は他の地点に比べて底生生物の個体数が少ないが、これは D0 が少ないことが要因の一つと考えられる。

平成 17 年度～18 年度の調査期間中は、油ヶ淵湖内の覆砂、浚渫作業が行われている最中であり、次第に湖内の底生生物の生息状況が変化していくと考えられることから、今後もモニタリング調査を継続し、油ヶ淵における生物の生息環境の特徴を把握することが、今後の水質、底質改善対策に資するものと考えられる。

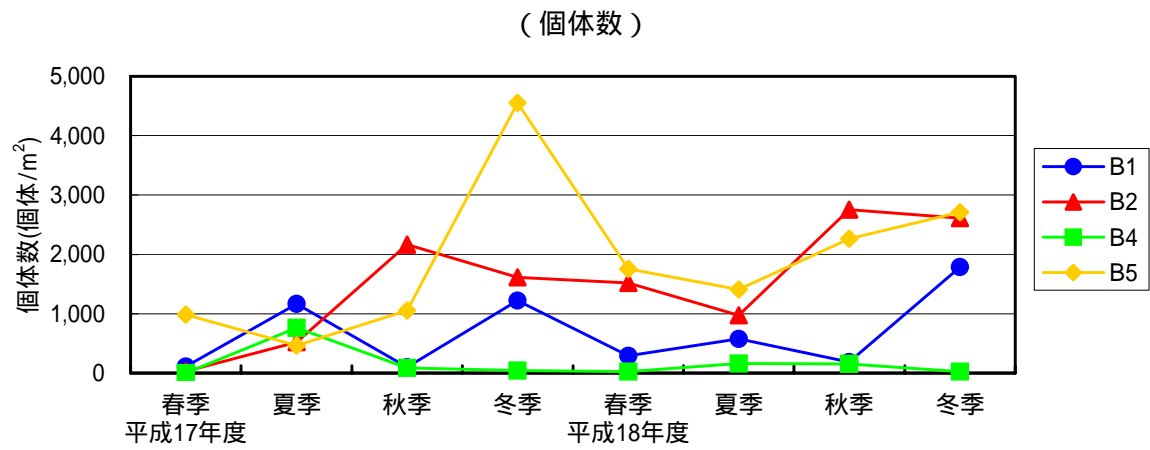
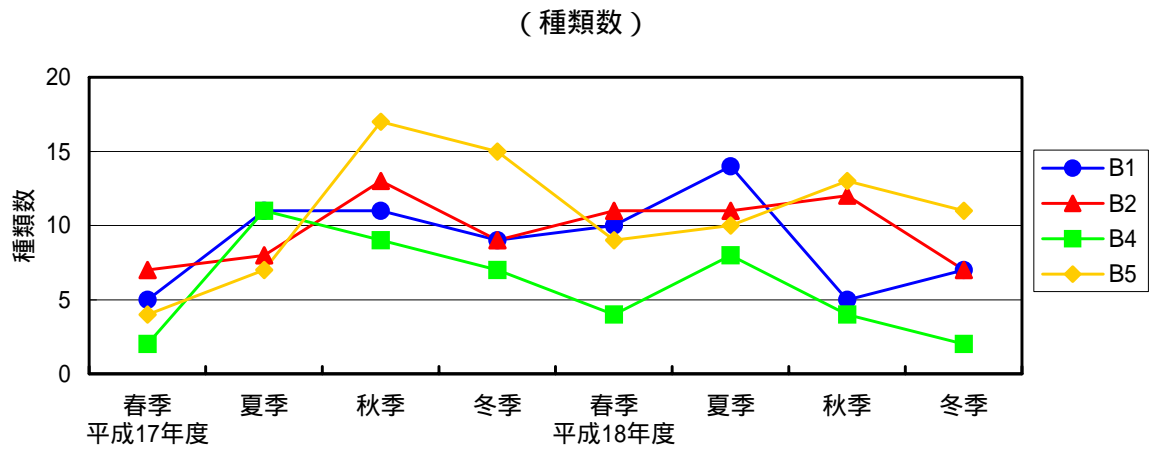
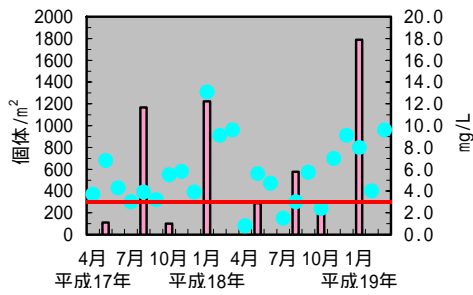
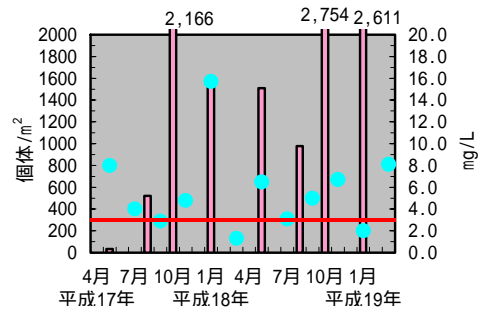


図2 底生生物の調査地点別の出現状況

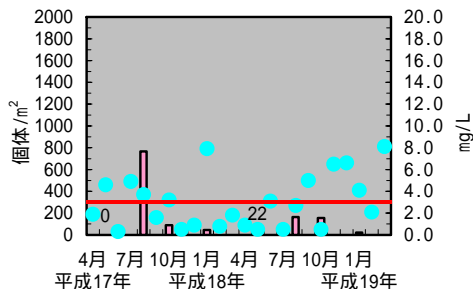
B1 (下池中央：湖心側)



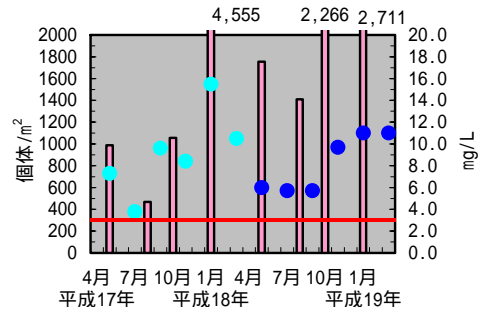
B2 (下池東岸：岸側)



B4 (上池上流：湖心側)



B5 (上池東岸：岸側)



注：B5 (上池東側) のD0の観測は、平成18年度から表層のみの観測であるため、参考値として、色()を変えて表示した。

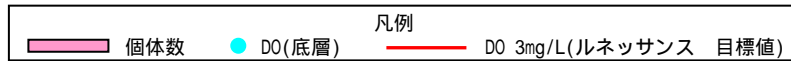


図3 各調査地点の個体数と底層のD0の状況



平成17年度撮影

図4 油ヶ淵における主な底生生物